

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
確率論的安全評価(レベル1及びレベル2)分科会
第18回 レベル2PSA 作業会 議事要旨

日 時:平成 17 年 8 月 18 日(木) 13:30~18:30

場 所:原子力安全基盤機構 第11C会議室

出席者:

委 員 梶本, 住田, 山越, 石川, 大野, 加藤, 倉本, 杉山, 濱崎, 佐藤(久持代理) 10 名 (欠席 大橋, 成宮, 日高)

常時参加者 荻野, 川端, 舟山

事務局 村上

配布資料:

P4WG18-1 第 17 回作業会議事要旨(案)

P4WG18-2 レベル 2PSA 標準(案)

P4WG18-3-1 加藤委員コメント

P4WG18-3-2 日高委員コメント

P4WG18-3-3 山越委員コメント

P4WG18-3-4 濱崎委員コメント

P4WG18-3-5 杉山委員コメント

P4WG18-4 委員退任届け, 委員推薦書

議事概要

議事に先立ち, 主査より委員 10 名が出席しており, 本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨確認(P4WG18-1)

前回議事録要旨について以下の修正を行い承認された。

- ・ 1 ページ目下 1 行目「機械学会や」を削除し, 「付録」を「解説」に変更。

2) 人事

谷川委員が退任することが報告された。新たに成宮氏(関電)が委員に推薦され, 作業会としても全員一致で推薦することに決定した。

3) 今後のスケジュール

事務局より, 今後のスケジュールについて紹介があった。

発電炉専門部会は9月 20 日もしくは 21 日で調整中。

標準委員会は 9 月 27 日に開催。

4) 標準・解説(P4WG18-2~3)

以下の議論が行われた。

- ・ 常用漢字に含まれない漢字でも, 慣用的に用いているのであれば, その表記を用いる JIS 基準に従う(爆ごう→爆轟, 等)。
- ・ 定義に「FV(Fussell-Vesely 重要度)」「リスク増加価値(RAW)」を追加する。「超過発生頻度」については, 定義と解説に追加する。
- ・ 本文各項目の目的の部分については, 現状, 目的と実施手順の概要が記載されているが, 実施手順の概要については, レベル 1PSA 標準で削除されたこともあり, 本標準でも削除する。
- ・ 類似プラントの情報の扱い(本文 3.1.2 等)に関する項目では, 一つの文にまとめて, 「類似プラントであり, 適用性を確認した場合には, その情報を使用できる。」とする。
- ・ 本文 5.3「バイパス事象に関する分析」については, 評価例を解説に記載するとともに, これまでの評価で引用した文献を持ち寄り, 解説に盛り込むこととする。
- ・ 本文 7「事故進展解析」, 10「ソースターム解析及び放出カテゴリの定量化」において, 検証さ

れた相関式及び解析モデルとあるが、これを説明するために、解説 10 及び 17 に OECD 文献を引用する。

- 本文 8.1「格納容器イベントツリーのヘディングの分岐確率の設定」、8.2「適切な定量化の実施」については、構成を修正し、一般的な事項は 8.1 に、不確実さ解析に係る事項は 8.2 に記載することとする。
- 本文 8.3.1「事故シーケンスの発生頻度及び格納容器破損頻度の定量化」において、早期及び後期格納容器破損頻度の解析は、要求項目から削除する。本文 10.4.3「早期大規模放出頻度の算出」を 10.4.2 b)項に含入するかどうかについては保留とする。
- 本文 8.4.1a)「プラント損傷状態の発生頻度との整合性」については、計算ミスのチェックであり、標準としてふさわしくないため削除する。
- 本文 8.4.3「類似プラントの評価結果との比較検討」については、類似プラントの定義が曖昧であり、具体的な確認方法が明確でないことから、要求項目から削除する。本文 10「ソースターム解析及び放出カテゴリの定量化」においても、同様の箇所(10.5.2)を削除する。
- 本文 10.2.2(e)「解析時間」は「事故が終息し」、環境への放射性物質の放出率が無視できるまで」に改めることとする。
- 本文 10.3.1「ソースタームの解析」において、詳細な要求である e)項「エアロゾル粒子径」及び f)項「工学的安全設備による除去」は削除する。また、d)「環境への放出量」には、性状、継続時間なども含める。

5) 今後の予定

第 19 回作業会予定:9 月 5 日(月)13:30～17:00

以上